

### (3) 水産物の流通・加工の概況

本県水産加工業は、塩釜、石巻、気仙沼及び女川を中心とした大型産地魚市場への豊富な水揚げに支えられ、全国でもトップクラスの地位を築き上げてきました。

国際的な規制により、本県漁業が北洋漁場から撤退した後は加工原魚の多くを海外からの輸入に頼らざるを得ない状況ですが、現在でも常に全国上位の生産を誇っています。

県内における平成21年の製造品の業種別出荷額を見ても、食料品出荷額（5,624億円）のうち、水産加工品は2,541億円と食料品出荷額全体の約45%で、本県において極めて重要な地場産業であることが分かります。

#### イ 水産加工生産

水産加工業は、本県の地域経済を支える重要な産業として発展してきました。

しかし、近年漁獲量の減少に伴い県内産地魚市場への水揚げ量が減少していること、輸入原魚への依存度が高まる一方で世界的な水産物消費の増加により輸入原魚の安定確保が困難になっていること、国内における魚介類の消費が低迷していること等から、生産量は、ここ数年は横ばい傾向にはあるものの、ピーク時に比べ低い水準となっています。

また、生産額においても、生産量の減少に加え、量販店等川下主体の価格形成を余儀なくされていること等から、生産量と同様、低い水準で推移しています。

平成21年の本県水産加工品生産量は約49万トン（対前年比121.3%）、生産額（水産加工品製造出荷額）は2,541億円（対前年比89.6%）であり、前年に比べ増加しており、生産量、生産額ともに横ばいの傾向にあります。

品目別で見ると、生産量では、塩蔵品が17,724トン（対前年比31.5%減）と前年より大幅に減少しましたが、生鮮冷凍水産物が355,001トン（対前年比47.7%増）と増加しました。

一方、出荷額では、かまぼこ類を代表としたねり製品が454億円（対前年とほぼ同）で横ばいでしたが、冷凍食品が699億円（対前年比87.8%）、冷凍水産物が266億円（対前年比71.9%）と前年より大幅に減少しました。

（生産量：トン，出荷額：百万円）

区分		H17	H18	H19	H20	H21
生産量	ねり製品	74,953	×	×	×	×
	うち、かまぼこ類	55,013	72,501	73,230	63,048	50,793
	冷凍食品	44,921	41,690	43,509	34,372	30,580
	その他の食品加工品	76,343	65,041	65,585	67,124	54,548
	うち、素干、塩干、煮干、くん製、節製品	4,697	4,340	4,779	4,577	3,726
	うち、塩蔵品	25,793	22,989	24,115	25,893	17,724
	生鮮冷凍水産物	193,842	226,296	221,907	240,313	355,001
計	390,059	×	×	×	×	
出荷額	ねり製品	45,959	44,311	48,124	45,340	45,359
	冷凍食品	79,839	83,149	81,098	79,559	69,878
	その他の食用加工品	116,977	113,746	120,614	121,789	112,285
	冷凍水産物	29,109	27,858	31,846	36,985	26,605
	計	271,884	269,064	281,682	283,673	254,127

資料）生産量：東北農政局統計部「宮城農林水産統計年報」

出荷額：宮城県企画部「宮城県の工業」

表14 宮城県における水産加工品の生産状況

（注）平成18年以降ねり製品の生産量が非公開となっているが、本県のねり製品の主力はかまぼこ類であることから、平成21年の水産加工品生産量を  $50,793 + 30,580 + 54,548 + 355,001 = 490,922$  トン（約49万トン）と推定しています。

## ロ 産地魚市場の水揚げ状況

本県には気仙沼、石巻、塩釜及び女川の主要4魚市場をはじめとした10か所の産地魚市場があり、そこに水揚げされる多種多様な水産物は、仙台や築地等の消費地市場を中心に全国各地へ出荷されています。

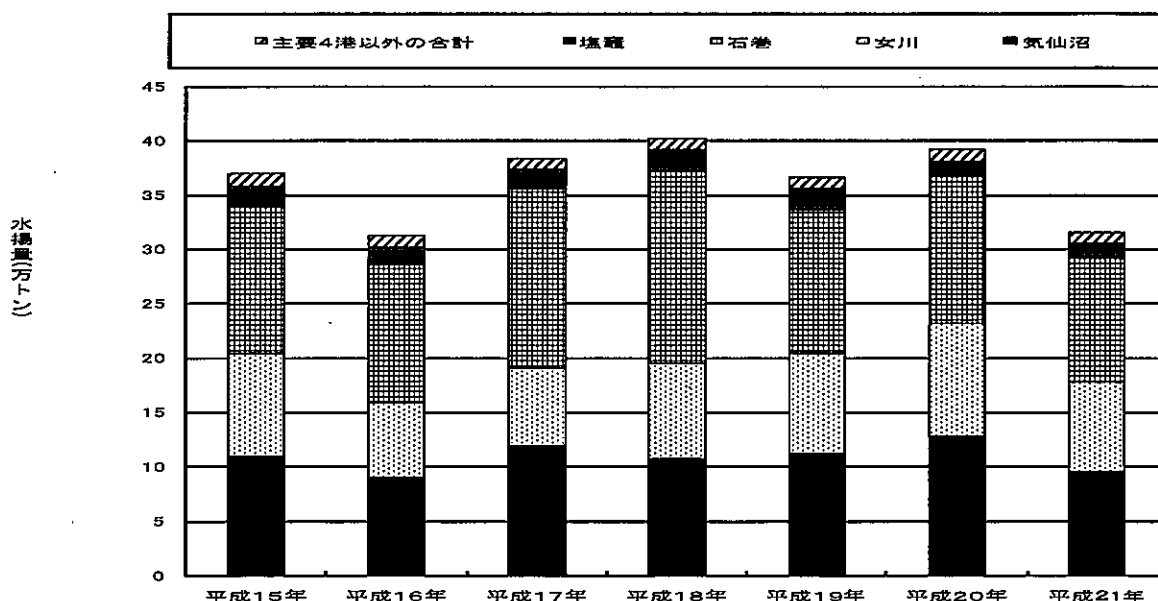
しかしながら、沖合漁業の対象種である主にイワシを中心とした多獲性魚種の資源量が低位水準かつ減少傾向にあること、また、沿岸においても資源量が総じて低水準にあること等から、長期的に見ると、本県産地魚市場における水揚量は減少傾向にあります。近年は、30から35万トンの間で推移しています。

また、消費の低迷や安価な輸入水産物との価格競争等により水産物の水揚単価も全般的に低迷しています。

平成21年の本県産地魚市場における水揚量は31万4千トンと、前年に比べ7万7千トン・19.6%減少し、水揚金額は543億円と、前年に比べ187億円・25.6%減少しました。

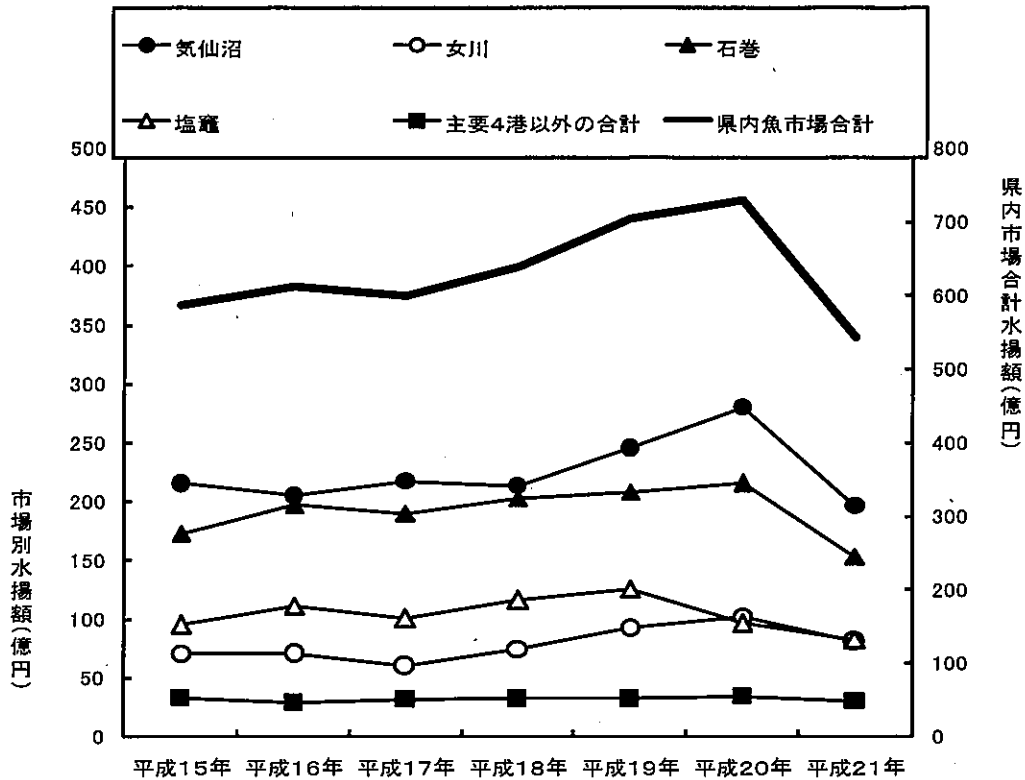
魚市場別に見ると、数量では、塩釜市魚市場が12,590トン(対前年比7.8%減)、気仙沼市魚市場が95,549トン(対前年比25.4%減)、石巻魚市場が115,066トン(対前年比14.9%減)及び女川魚市場が82,137トン(対前年比20.7%減)といずれも大幅に減少しました。水揚金額では、塩釜市魚市場が82億9千万円(対前年比14.3%減)、気仙沼市魚市場が196億1千万円(対前年比30.1%減)、石巻魚市場が152億9千万円(対前年比29.1%減)及び女川魚市場が80億9千万円(対前年比21.0%減)と大幅に減少しました。

魚種別では、かつおが全国的な不漁となり前年に比べ4万3千トン・109億円と大幅に減少しました。また、本県の主要魚種であるまぐろ類、たら類、さんま等も水揚げが減少しました。



資料：宮城県農林水産部水産業振興課「水産物水揚げ統計(属地統計)」

図14 県内産地魚市場の水揚げ量の推移



資料：宮城県農林水産部水産業振興課「水産物水揚統計（属地統計）」

図15 主な産地魚市場の水揚額の推移

(水揚量：トン，水揚額：千円)

魚市場名	水揚量				水揚額			
	対前年比	県内船	県外船	対前年比	県内船	県外船		
地方卸売市場塩竈市魚市場	12,590	92.2	3,391	9,200	8,289,356	85.7	1,483,754	6,805,601
地方卸売市場気仙沼市魚市場	95,549	74.6	30,340	65,209	19,606,776	69.9	8,402,662	11,204,114
石巻市水産物地方卸売市場 石巻売場	115,066	85.1	65,392	40,507	15,287,712	70.9	10,434,790	4,797,462
女川町地方卸売市場	82,137	79.3	53,361	28,775	8,093,781	79.0	5,908,653	2,185,128
南三陸町地方卸売市場	8,261	86.9	8,261	0	1,683,740	82.7	1,683,740	0
宮城県漁業協同組合閉上支所 閉上地方卸売市場	215 (8,207)	125.7	215	0	176,723	125.6	176,723	0
地方卸売市場 宮城県漁業協同組合亙理支所魚市場	488 (32,189)	87.5	488	0	491,547	94.0	491,547	0
石巻市水産物地方卸売市場 牡鹿市場	364	93.1	364	0	195,964	91.1	195,964	0
地方卸売市場宮城県漁業協同組合 七ヶ浜支所花淵浜魚市場	244 (27,201)	78.5	244	0	451,930	104.8	451,930	0
合計	314,914 (67,597)	80.4	162,056	152,691	54,277,530	74.4	29,229,765	24,992,305

資料：宮城県農林水産部水産業振興課「水産物水揚統計（属地統計）」

(注) 水揚量の下段にある ( ) 内の数値は、「養殖のり」の水揚量 (枚数：千枚) を示す。

表15 各産地魚市場の水揚 (平成21年)